

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立黒崎中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 ()
所在地 〒806-0054
北九州市八幡西区西鳴水一丁目1番1号
E-mail kurosaki-j@kita9.ed.jp
Website http://www.kita9.ed.jp/kurosaki-j/
幼児児童生徒数 男子 209名 女子 217名 合計 426名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「つながる」を活動テーマとして、ESDを生きる力と捉え、ESDの実践を通して創造的なコミュニケーション能力の育成を目標とした。

具体的には、環境、GCED、国際理解を柱に、①ホタルに係わる活動、②GCEDに係わる教育、③国際理解に係わる活動、④地域と環境に係わる学習を行った。

① ホタルに係わる活動

本校前を流れる撥川を地域の人々や団体が保全し、環境のシンボルであるホタルが、なぜ飛ぶようになったのか。環境の変化と地域の努力について学習し、自然環境の大切さと自分たちができることを考える。その中で、地域団体であるラブリバー撥川ネットワークとの連携を中心にエコ・ガーデニング部のホタルの飼育活動と交流、全校生徒による撥川地域清掃を通して、環境保全や地域との連携の重要性、生態系における連携性を考える。

② G C E Dに係わる教育

これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成する教育を意識して、各学級で「学級E S D」の取組を行っている。具体的には、第1学年は地域、第2学年は環境、第3学年は未来と進路をテーマに各学級で自分たちが実行できることを考え、意見を出し合う。そのまとまった内容を1学期の生徒総会で、2学期には実践した内容の中間報告を文化発表会で発表し、3学期は1年間の取り組んだ成果と課題をレポートにまとめるという活動を通して、これからの地域や環境、自分自身の生き方を意識して行動できるようになるための教育を行っている。

③ 国際理解に係わる活動

世界では、貧困であるがゆえに多くの子どもたちが命を落としている。特に20秒に1人の赤ちゃんや子どもが、ワクチンがないために命を落としている実態を知り、ワクチン支援を行っているJ C Vの活動に生徒会が賛同し、支援を行っている。実際には、生徒会執行部を中心に全校生徒へ呼びかけ、ペットボトルキャップの回収を行い、回収事業者団体を通して、売却した利益がJ C Vに寄付されている。

④ 地域と環境に係わる学習

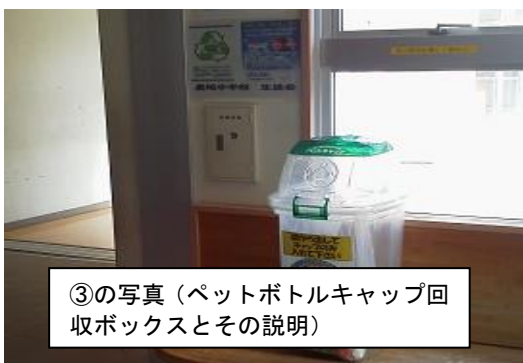
職場体験学習の際に、各仕事とつながる社会における課題として「環境」をテーマとし、事前学習で環境問題や企業の環境への取組について学習した後、各職場で仕事を体験する。各職場では、体験活動だけでなく、環境に対する取組についてのインタビューを通して、それぞれの考えや苦勞を知る。体験後には、各職場の取組を共有した上で、社会のために何が必要かを考え、自分たちや各職場でできることを話し合い、地域や職場への提案を考える。



①の写真（撥川清掃のようす）



②の写真（生徒総会でのようす）



③の写真（ペットボトルキャップ回収ボックスとその説明）



④の写真（職場体験のようす）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<https://www.facebook.com/loveriverbatigawa>
(ラブリバー撥川ネットワーク facebook)
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kensetu/05100136.html>
(撥川ルネッサンス計画 北九州市公式ウェブサイト)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

自分たちの住む地域に興味・関心をもち、持続可能な社会づくりという視点から住む街と自分の将来に展望をもてるよう、ユネスコスクールとしての活動を位置づけている。

指導内容としては、本校前を流れている撥川の「ホタル」を題材とした環境教育を中心に、黒崎地区の歴史や環境保全の取組、ホタルの飼育活動など、総合的な学習の時間や特別活動、部活動で取り組んでいる。

特に撥川清掃やホタルの飼育、校内でホタルを飛ばせるための環境づくりなど、協働・協同学習や体験・参加型の学びとなるよう指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌にESD推進委員会を設置し、各学年の総合的な学習の時間の担当職員と連携して取り組む体制を構築している。

授業だけでなく、生徒会や部活動でも環境問題や国際理解に関わる課題を設定し活動している。また、地域のホタル愛護団体とも協力する中で、継続的に取り組める環境を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、コミュニケーション能力やESDの観点に基づく授業実践について、教員と生徒に各学期末に行った。

成果としては、教員・生徒ともにユネスコスクールとしての活動に対する意識の向上が見られた。課題としては、話し合い活動の充実とそのため
の指導内容の見直しを図る必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

市内の小中学校が中心であるが、他のESD推進校とともに今年度実践した内容を報告書にして発信している。また、市内のユネスコスクールとESD推進校との実践交流会を行っており、他校の実践内容を知ることができ、自校の取組内容の再確認にもなっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体として、ラブリバー撥川ネットワークとの協働・交流を行っている。撥川清掃やホタルの飼育、校内でホタルを飛ばせるための水辺の環境づくりなど、本校のユネスコスクールとしての取組に対して全面的に協力をいただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

市内のユネスコスクールとESD推進校との交流が中心となっている。国内のユネスコスクールとは、活動依頼のメールのやりとり程度しかできていない。今後は、市外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成を図っていく必要がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動を通して、生徒が地域の行事やボランティアに対して、少しずつであるが関心をもち、活動に参加するようになったことがあげられる。また、教員も今まで行っていた活動に対して、ESDの視点で捉えるようになってきたことが大きな変化である。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も、①ホタルに係わる活動、②GCEDに係わる教育、③国際理解に係わる活動、④地域と環境に係わる学習を中心に活動していく予定である。①のホタルについては、校内の水環境を整え、ヘイケボタルを飛ばす計画が進んでいる。また、②についても、GCEDのために必要なスキルや態度をさらに育成していきたいと考えている。④については、GUなどの企業を招致して、環境への取組についての学習を進めていく予定である。